

平成 20 年 10 月 22 日

関係各位

千葉大学大学院医学研究院長
徳久剛史

病態制御学研究部門病態制御治療学講座細胞治療学教授候補者の公募について

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本研究院では、病態制御学研究部門病態制御治療学講座細胞治療学の齋藤 康教授が平成20年3月31日をもって定年退職いたしましたので、後任の教授候補者の選考を下記の要領で行うこととなりましたのでお知らせします。

なお、診療や医師研修指導、医学部学生の臨床教育においては内科系（内分泌・代謝・糖尿病）の領域を担当される方の応募を希望します。

敬具

記

1. 選考方針

- (1) 内分泌・代謝・糖尿病の分野で顕著な業績をあげ、この領域で診療と研究を進めるための優れた能力を有しこれら全般の教育を実践できる者。
- (2) 大学院医学研究院における研究及び大学院医学薬学府（細胞治療学）と医学部の兼任教授として、大学院生の教育・研究指導と医学部学生の教育に優れた能力を有する者。
- (3) 大学院医学研究院教授にふさわしい人格を有する者。

2. 応募締切日 平成20年11月28日（金）必着

3. 提出書類

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 履歴書（別添記載上の注意事項参照） | 1部 |
| (2) 業績目録（別添記載上の注意事項参照） | 1部 |
| (3) 主要論文別冊（10論文以内） | 各3部 |
| (4) 教育実績（別添記載上の注意事項参照） | 1部 |
| (5) 応募理由書（別添記載上の注意事項参照） | 1部 |
| (6) 推薦状（様式は任意） | 1部 |

4. その他

本研究院では、教授任期を10年（再任可）とした任期制を導入しております。

5. 提出先及び問い合わせ先

- (1) 提出先 〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学大学院医学研究院長 宛
(郵送の場合は簡易書留とし、「細胞治療学教授候補者応募書類在中」と朱書きください。)
- (2) 問い合わせ先 千葉大学医学部総務グループ（担当：鈴木，中里）
☐043-226-2003（内線5005）

記載上の注意事項

1. 履歴書（様式1-1）

- ① **学歴**は、大学入学以降の学歴、研究生などの研究歴を記入して下さい。
職歴には、給与関係を除いて下さい。なお、履歴の空白期間には、説明（自主研修等）をつけて下さい。研究歴及び教育歴には、所属講座・部門等まで記入して下さい。
- ② **免許及び資格**には、医師免許、歯科医師免許、認定医、専門医、指導医、標榜医等を記入して下さい。
- ③ **学位**には、授与された大学名も記入して下さい。また、大学院の課程修了による学位は大学名の後にAと、論文提出による学位はBと記入して下さい。
- ④ **学会活動等**は、所属の学会名、役職名等を記載して下さい。
- ⑤ **賞**には、学術活動による表彰を記入して下さい。
- ⑥ **年の表示**については、西暦で記入して下さい。（以下共通）

2. 業績目録（様式1-2）

- ① **A～F**の各項について記入して下さい。（目録の1枚目から順に頁を付して下さい。）
- ② 目録**A～D**には、既に刊行されたものと、受理（accept）されて公刊予定となったもの（印刷中、in press）のみを記入して下さい。
（注1）記載は、欧文・和文に分けて、それぞれ発行年順に記入して下さい。
（注2）記載方法は、記載例を参照して下さい。本人には、アンダーラインを付して下さい。
（注3）共著者名は、業績に記載してある順に全員記入して下さい。
A. 原著とは、著者の研究成果をまとめたもので、referee journalに記載された論文を指します。
（注）学位論文に相当する原著の番号を○印で囲って下さい。
B. 症例・治験・手技の項には、A, C, Dのいずれにも属さないものを記載して下さい。
C. 総説には、展望・講座・解説等が含まれます。
D. 著書には、翻訳が含まれますが、その場合は（翻訳）と記して下さい。
- ③ **E. 学会発表**については、**a. 特別講演・シンポジウム等**（最近5年間）、**b. 一般発表**（国際学会のみ、最近5年間）をそれぞれ欧文・和文に分けて年代順に記入して下さい。なお、講演要旨或いは抄録の掲載記録は、行末に括弧を付けて記入して下さい。
- ④ **F. 研究助成金取得状況**については、文部科学省（文部省）・厚生労働省（厚生省）・その他に分け、また、代表研究者か分担研究者かを明記して下さい。なお、研究報告書は、括弧内に記入して下さい。

3. 教育実績（様式任意）

教育に関する研修歴、主な講義内容、教務・厚生補導等に関する委員歴等その他教育に関する経験、実績等について記載して下さい。

4. 応募理由書（様式任意）

研究、教育（卒後教育を含む）についての抱負を記載して下さい。

- （注）1. 上記書類は、学内に公開されることがあります。
2. 上記書類は、原則としてA4版とし、ワードプロセッサ等を用いて作成して下さい。

履 歴 書

ふりがな ち ば た ろう
氏名・性別 千 葉 太 郎 ㊦ 男
生年月日 1950年5月31日
現住所 千葉市中央区亥鼻1-8-1
本籍 千葉市稲毛区弥生町1-33
現職 千葉大学助教授大学院医学研究院 (〇〇学)

学歴及び職歴

1969年 4月 1日 千葉大学医学部入学
1975年 3月23日 千葉大学医学部卒業
1975年 6月 1日 医員(研修医)(千葉大学医学部附属病院〇〇科)(1976年 3月30日まで)
1976年 4月 1日 千葉大学大学院医学研究科博士課程(〇〇系)入学
1980年 3月25日 千葉大学大学院医学研究科博士課程(〇〇系)修了
1980年 4月 1日 研究生(千葉大学医学部〇〇学講座)(1982年 3月31日まで)
1982年 4月 1日 医員(千葉大学医学部附属病院〇〇科)(1983年 3月30日まで)
1983年 4月 1日 文部教官 千葉大学助手医学部附属病院(〇〇科)
1986年 9月 1日 文部省在外研究員(アメリカ合衆国ペンシルバニア大学医学部生理学講座)(1987年 6月30日まで)
1987年12月 1日 千葉大学講師医学部附属病院(〇〇科)
1988年 4月 1日 厚生技官(国立〇〇病院〇〇科医長)
1990年 4月 1日 文部教官 千葉大学講師医学部(〇〇学講座)
2001年 1月 6日 中央省庁等の再編に伴い、文部教官は文部科学教官となった
2001年 4月 1日 文部科学教官 千葉大学講師大学院医学研究院(〇〇学)
2004年 4月 1日 千葉大学は国立大学法人千葉大学となった
2004年 5月 1日 千葉大学助教授大学院医学研究院(〇〇学)

免許及び資格 医師免許(登録番号 123456号) 19〇〇年〇月〇日
第一種放射線取扱主任者(登録番号 78910号) 19〇〇年〇月〇日
日本内科学会認定医, 日本循環器学会専門医

学 位 医学博士(千葉大学A) 1980年3月25日

学会活動等 日本薬理学会評議員, 日本生理学会員, 日本神経科学会専門委員
International Brain Research Organization 会員
編集委員: 蛋白質・核酸・酵素, Journal of Biological Chemistry

賞 日本細菌学会黒屋奨学賞(〇〇〇に関する研究, 19〇〇年)
日本電子顕微鏡学会瀬藤賞(〇〇〇に関する研究, 19〇〇年)

業 績 目 録

A. 原著

- ①. Chiba, T. (1980) Electron microscope observations on the fusion of chick myoblasts in vitro. J. Cell Biol. 48, 128-142.
2. Kono, M., Ishikawa, K. and Chiba, T. (1987) Acetylcholine sensitivity of skeletal muscle cells differentiated in vitro from chick embryo. Brain Res. 25, 216-219.
3. Grant, S., Kobayashi, H. and Chiba, T. (1991) Isolation and culture of motoneurons from embryonic chicken spinal cords. Proc. Natl. Acad. Sci. USA 76, 3537-3541.
4. Suzuki, N., Chiba, T. and Bader, D. (1996) Molecular cloning and expression of chicken cardiac troponin T. Cir. Res. 65, 1251-1246.
5. Hastings, K. E. M., Koppe, R. I., Marmor, E., Chiba, T. and Aoki, N. (in press) Structure and developmental expression of troponin I isoforms. J. Biol. Chem.
6. 野田雄二, 唐沢義一, 千葉太郎, 工藤栄一 (1990) 食道癌手術視野からみた気管支動脈の走行に対する解剖学的検討. 日外会誌 94, 456-465.
7. 小林秀雄, 千葉太郎, 石川洋一 (1997) 右開胸食道癌根治手術時における上縦隔リンパ節の郭清可能範囲に関する研究. 日消外会誌 26, 2134-2139.
8. 中野 浩, 伊藤浩二, 千葉太郎, 和田幸平 (印刷中) 下肢刺激 SEP の随意運動による影響. 臨床脳波.

B. 症例・治験・手技

1. Kawai, A., Ishige, T., Chiba, T. and Murayama, W. (1995) Malignant exophthalmos associated with multiple myeloma. Inter. Med. 32, 875-878.
2. Chiba, T. and Fujita, M. (1999) A case of renovascular hypertension: segmental hypoperfusion resulting from single vessel stenosis in the presence of bilateral duplex renal arteries. Jpn. Cir. J. 56, 620-622.
3. 中野俊一, 千葉太郎, 橋本三郎 (1997) 上皮小体の癌と腺腫の異時性重複と思われる 1 症例. 耳頭頸 65, 647-652.

C. 総説

1. Chiba, T. (1996) Brain damage due to surgical injury to the cerebral vein. Clin. Rev. Neurosurg. 3, 191-195.
2. 千葉太郎 (1997) FACS を用いた細胞間接触と Ca²⁺ シグナルの検索. 実験医学 11, 93-98.

D. 著書

1. Peltz, S., Chiba, T. and Jacobson, P. (1995) mRNA turnover in *Saccharomyces cerevisiae*. In: Control of Messenger RNA Stability, ed G. Brawerman and J. Belasco, San Diego, San Diego, CA: Academic Press Inc., 291-327.
2. Woolford, J., Chiba, T. and Warner, R. (1997) The ribosome and its synthesis. In: The Molecular and Cellular Biology of the Yeast *Saccharomyces*: Genome Dynamics, Protein Synthesis and Energetics, vol. 1, ed. J. R. Broach, J. R. Pringle and E. W. Jones, Cold Spring Harbor, NY: Cold Spring Harbor Laboratory Press, 587-626.
3. 千葉太郎 (1996) 心肺運動負荷テスト. 運動と呼吸, 谷村真一編, 南江堂, 東京, 1-10.
4. 野口進一, 千葉太郎 (1997) レセプター遺伝子の発現と合成, レセプター: 基礎と臨床, 今井和夫編, 朝倉書店, 東京, 92-105.

E. 学会発表

a. 特別講演・シンポジウム

1. Chiba, T., Kawai, A. and Ishige, T. (1996) Fetal cells in maternal blood: frequencies measured by the polymerase chain reaction (PCR) and in situ hybridization. 8th International Congress of Human Genetics Symposium. (Am. J. Hum. Genet., Suppl. 49, 210-211, 1996.)
2. 千葉太郎 (1997) XYZ 症候群と精神障害. 第 85 回日本解剖学会総会. (解剖誌 10, 379-380, 1998)

b. 一般発表 (国際学会のみ)

1. Imamura, T., Yokosuka, O., Chiba, T., Tanaka, M., Kurihara, T., Sumi, H., Fukai, K., Imazeki, F. and Saisho, H. (2002) Distribution of hepatitis B virus genotypes in acute form of liver disease. 53rd Annual Meeting of the American Association for the Study of the Liver Diseases (Hepatology 36 Suppl. 1, A364)
2. Chiba, T., Yokosuka, O., Fukai, K., Tada, M., Hirasawa, Y., Imazeki, F. and Saisho, H. (2004) Identification of novel genes with aberrant methylation in hepatoma cells. Digestive Disease Week 2004 and the 105th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Gastroenterology 126 Suppl. 2, A551)

F. 研究助成金取得状況

a. 文部科学省（文部省）科学研究費

一般研究（B）「遺伝子発現，蛋白質合成及び構造形成の機構」研究代表者，1995-1996年

一般研究（A）「〇〇〇に関する細胞生物学的研究」研究代表者，1997-1999年

試験研究（B）(2)「〇〇〇に関する研究」研究分担者（研究代表者 〇〇大学 大沢三郎），
1994-1995年

重点領域研究（2）「〇〇〇に関する基礎的研究」研究分担者（研究代表者 △△大学 齋藤
五郎），1997-1999年（1997・1998・1999年度文部省科学研究費補助金重
点領域研究（2）研究報告書 708-711, 2000.）

b. 厚生労働省（厚生省）

精神・神経疾患研究委託費「〇〇〇に関する研究」研究分担者（研究代表者 ××大学 小
杉六郎），1994-1996年（厚生省精神・神経疾患研究委託費平成元年報告書 63-67, 1995；1995
年報告書 50-55, 1996；1996年報告書 53-58, 1997.）

c. その他

Muscular Dystrophy Association "Neuronal control of postsynaptic muscle protein".
1997-1999. (Annual Report 105-110, 1997; 150-155, 1998; 161-165, 1999.)

〇〇記念財団自然科学研究「〇〇〇に関する研究」研究代表者（〇〇記念財団自然科学研究
報告書 187-189, 1997.）